

平成 28 年度 第 1 回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 平成 28 年 6 月 30 日 (木) 18 : 00 ~ 19 : 55
- 2 会 場 帯広百年記念館 1 階 2 号室
- 3 出席委員 我妻 公裕、西保 俊太郎、杉本 光瞬、阿部 好恵、平田 昌弘、矢野 充、
中田 由美子、松田 信幸、池田 健一、松本 健春、高倉 美恵子、大槻 みどり、
田中 恵子、久保田 博己、半田 聡、藤崎 博人、佐々木 祥世
(以上 17 名 敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 神田 亜紀志、スポーツ振興室長 敦賀 光裕、生涯学習部企画調整
森川 芳浩、スポーツ振興室施設担当次長 泉 和知、図書館長 前原 匡宏、生涯学習
課長 樂山 勝則、文化課長 増子 和則、百年記念館長 北沢 実、動物園長 柚原 和
敏、生涯学習課係長 島田 猛、生涯学習課主任補 黒澤 英里子、生涯学習課係員 岩
崎 真実
(以上 12 名)

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 帯広市教育委員会 挨拶
- (3) 帯広市社会教育委員長 挨拶
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 議事要旨

(1) 帯広市新総合体育館の整備運営に向けた取組みについて

事務局より説明。

【質問・意見等】

○委員

新総合体育館の観客席の規模はどのようになる予定なのか。

●スポーツ振興室施設担当次長

可動席を含め、約 3,500 席となると想定している。具体的な席数は提案内容で前後する。

○委員

新総合体育館の建設について、いつから社会教育委員会議で説明しているのか。

●スポーツ振興室長

平成 25 年度から毎年度、社会教育委員会議において説明している。

○委員

社会教育委員会議での意見は反映されているのか。スポーツ施設は特に利用者側の意見が重要となるのではないか。

●スポーツ振興室長

平成 25 年度に建設場所等について、体育連盟や市民などとの意見交換会、併せて社会教育委員会議でいただいた意見を踏まえて方針を立てた。このほか、平成 26 年度では障害者スポーツの団体を加えて意見交換会を行い、計画の概要ができた後パブリックコメン

トを行っている。平成27年度では、具体的な実施方針や仕様、運営方法等について市民の意見や周辺住民からの意見聴取も行き進めてきた。

○委員

それに対して、我々社会教育委員は何をしたら良いのか。

○委員長

この会議の場で質疑をするほか、各分野に持ち帰り、それを周囲に伝えていくことが求められると認識している。

○委員

体育連盟との意見交換会では、体育館は「メインアリーナとサブアリーナを作ってほしい」と提言したはずだが、「一体型（バスケットボールコート4面）」の体育館の説明があるのはなぜか。

●スポーツ振興室長

確かに体育連盟からは「メイン（バスケットボールコート3面）とサブ（バスケットボールコート1面）で構成される2つのアリーナ方式が良い」という旨のご意見をいただいております。今年度5月27日に開催された事業者説明会でもそのようにお伝えしている。なぜ「一体型」の構成を否定していないかという点、建築・整備関係者や全国規模のスポーツ団体から構成される「アリーナスポーツ協議会」から、日本にない一体型のアリーナの提案があっても良いのではないかという意見があり、多様な提案が可能となるようにしているためである。しかし、地元（帯広市）の声を優先することを条件にしておき、地元の要求以外の内容を提案する場合は、よりわかりやすい説明をするように求めている。

○委員

建替えの期間内で、大会の受け入れは可能なのか。

●スポーツ振興室長

既存の体育館はできる限り使用することを予定しており、平成31年12月末までは旧体育館が利用できる。従って、1月及び2月が利用休止期間となる（平成31年3月完成予定）。2月は大会の開催も少ない傾向にあるため、影響は最小限に抑えられると想定している。

(2) 社会教育委員会議の研究協議テーマについて

①今後の意見集約の方法について

事務局より説明。

【質問・意見等】

なし。

②前回の会議まとめについて

委員長より説明。

【質問・意見等】

なし。

③協議テーマ「社会教育の本質「自己教育」・「相互教育」を掘り下げる」

委員長より「テーマ概要」について説明。

【質問・意見等】

以下のとおり。

1. 「自己教育」の促進策

○委員

学校は（生徒の）自己教育力を高め、学習意欲を高める場であると思う。まずは自分が学ぶ目的を見つけなければならない。「やりたい」、「学びたい」と思わせることが重要であるとする。しかし、普段から意識している人は少なく、課題に直面したときに、それを解決すべく学ぼうとする場合が多い。

○委員

学校教育などの形を除き、なかなか学習に充てる時間が取れない現状が広がっているように感じる。

○委員

生活に余裕がなければ、学習意欲がなかなか湧かないのではないだろうか。

○委員

市民は皆、多かれ少なかれ学習意欲は持っている。それをいかに汲み取っていくかが重要である。また、学習情報について周知することも重要である。それぞれが持つ学習ニーズを的確に捉え、サポートすることができれば、自己教育は促進されると思う。

○委員

自発的に行動を起こすことで、仲間ができ、その中で互いに自己啓発が行われる。昨今、主体的にボランティアに参加する人が減少しているように感じる。自分で自分を磨くことが必要ではないだろうか。

○委員

自分の好きなことから始めることが大事であり、自分の学習したことを、周囲にも還元していくことが大切ではないだろうか。

○委員

自分が楽しまなければ続けられない。ボランティアは他人のためだけに行うものではなく、自分のためにもなっている。

○委員

（所属団体の活動で）子どもと関わることで、多くの気づきが得られている。

○委員

価値観が多様化しているなかで、互いの価値観を認め合えるように、個人の能力に合わせた適切な教育が必要である。若いうちにそういった教育を行うことが重要である。

○委員

経済的に余裕がないと自己教育に手が伸びない。経済面で学習活動を支援できる体制づくりも必要ではないか。

○委員長

学習意欲は誰もが持つもの。しかし実践できない、または継続できない環境があり、情報の周知不足や経済的課題、価値観の多様化など様々な要因が考えられるが、そういった課題を解決するために行政や我々社会教育委員が行動を起こしていくべきなのだろうと思う。

2. 「相互教育」の形

○委員

自分ひとりでは学習を進めることが難しい場合は、小集団を形成して学び合うことで、学習が進められていくと考える。

○委員

「教えるも学ぶも半ばなり」というが、教育現場でも児童と教師が互いに学び合っている。

○委員

学習講座の運営をしているが、受講生を集めるためにどうしたら良いのか悩んでいる。そこで、今回の会議で気付きを得たものが、「情報の発信」が重要であるということである。

○委員

価値観が多様化している中で、それに応じた学習提供が重要。また、ストレス社会で心の病を抱える人が増加しているなかで、集団で何かを行うことが大切であると考え。自己啓発は健康で心が豊かであることが望ましい姿であると考え。そうなれる何かを提供できると良い。

○委員

共通した何かをしていると、集団を作りやすい。知りたいことが共有できる。

○委員

人材マップのようなものはあるのか。

●生涯学習係長

生涯学習課では生涯学習指導者登録制度を行っており、講師情報をホームページで公開している。

3. 「相互教育」の意義と効果、教育行政としての望ましい関与の形

○委員

行政としてやるべきことは学習機会の提供である。行政が持っている資源を提供していただければ良い。

○委員

広報おびひろなどにより、多くの講座が紹介されており、市が行う学習活動の応援体制は整っていると感じている。それに加えて、受講生など実際に学習活動に参加した方の声を発信できれば良いと思う。

○委員

先ほど、学習講座運営の話をつたが、市民のニーズを汲み取って、学習機会の提供につなげるという活動は、まさに社会教育のあるべき活動と思う。この会議でもそのような内容を議論していきたい。

○委員長

情報の発信や学習機会の提供など、行政と社会教育委員が協力して取り組んでいくことが重要であるのではないか。また、学習機会は住民のニーズをとらえながら、それによる効果が得られているか意識する必要がある。

相互教育は、人と人とのつながりを生み、それが人づくりや地域づくりにつながる。

4. その他

○委員

社会教育委員会議での意見や議論の内容は、何かに反映されるのか。

●生涯学習課長

この会議は、社会教育行政が関わる審議会や協議の場において、最上位の会議となるものであり、この場の議論は真摯に受け止めさせていただいている。しかし、すぐに対応できる課題のほか、解決するために時間を要する、あるいは費用を要する課題もあることをご理解いただきたい。

○委員長

すぐに解決できない課題であっても、それを将来にわたって考える機会が非常に重要であり、それがこの会議である。

(3) その他

動物園長より、おびひろ動物園の取組（おびひろ動物園ゆめ基金、トラの導入）について説明。

【質問・意見等】

○委員長

おびひろ動物園ゆめ基金を知らなかった。広報の方法はどのようにされているのか。

●動物園長

帯広市ホームページなどで周知していたが、アピール不足で申し訳ない。

○委員

目標額はあるのか。

●動物園長

明確な金額は定めていない。

●生涯学習課長

皆様への情報提供の仕方に課題があると思う。今後の社会教育委員会議で、教育委員会の取組みを随時ご紹介させていただくほか、日常的に情報の提供ができないものか考えたい。おびひろ動物園ゆめ基金を創設した経緯については、基金が創設される以前は、単年度で歳出歳入予算を組んで使い切る形だったが、この基金ができたことによって、貯めたお金を必要なときに使えるようになり、より有効な使い方ができるようになったというメリットがある。

○委員

トラは釧路市動物園から導入するということだが、購入するということによろしいか。

●動物園長

繁殖を目的として借りることになっている。

以上